

TICA に敬意を表します。今日、ネコの世界で活躍する女性たち。

国際女性デーに、TICA の創設者ジョージア・モーガンにスポットライトを当てます。

ジョージアは 40 年以上前に一握りの猫愛好家と共に TICA を設立し、世界で最も進歩的で柔軟、そして革新的な猫登録機関を作るという彼女の夢がどのように TICA の基礎となったかをお読みください。

1979 年 6 月 22 日、ジョージア・モーガンと一握りの猫愛好家たちによって、**The International Cat Association (TICA・国際猫協会)** が設立されました。世界で最も進歩的で柔軟かつ革新的な猫登録機関を構築するという彼らの夢は、TICA の設立によって実現しました。

TICA の最初のショーは、1979 年 7 月 28 日にワシントン州タコマ近郊の Fort Lewis で開催された「真夏の夜の夢」でした。その他の「ファーストショー」は、カナダでは 1979 年 10 月 7 日に Alberta 州 Red Deer で「White Hatters Cat Fanciers」主催で、ハワイでは 1980 年 2 月 23 日にハワイ州ホノルルで「Mid-Pacific Cat Fanciers」主催で、アラスカでは 1980 年 5 月 3~4 日にアラスカ州アンカレッジで「Alaskats」主催で開催されました。

北米以外の地域で最初に確認された国際地域は日本でした。1980 年 3 月 2 日、名古屋で開催された AJC (全日本愛猫協会) 主催の国際ショーが最初です。それ以来、TICA はアメリカ全 50 州、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ、アジアにクラブと会員を持つまでに成長しました。

From The Beginning, All We Had Was Our Word



TICA (The International Cat Association) は、1979 年 6 月 22 日 (金)、ミズーリ州の Ozark 山中で設立されました。ブランソン村 (Point Lookout の近く) が、私たちの輝かしい協会の発祥の地となりました。歴史的な標識が設置されることはありませんでしたが、一握りの猫愛好家の自発的な夢、勇気、先見性、不屈の精神が TICA の設立を促したことは記憶に留めておく価値があると思います。それらは、世界で最も進歩的で、柔軟性があり、革新的な猫登録の基金として役立ってきました。

新しく ACFA の会長に選ばれた私は、1979 年 6 月 20 日(水)にミズーリ州 Point Lookout で理事会を招集し、理事に選ばれたメンバーが中央事務局の仕事を直接観察し、確立した政策を見直し、従業員に会い、予備予算を立て、いくつかの既存の不公平を解決し、理事全員と和気藹々とした仕事関係を確立できるよう努めました。このグループは、和気あいあいと仕事をし、会員に不安を与えている問題に取り組み、究極の変化が不可欠であることを認識することが極めて重要でした。2 日間にわたり、快適な協力関係の構築、ハードカバーの Yearbook の作成、審査システムの見直し、Household Pets の認知度向上、そして協会の予算案など、すべての試みが長々と話し合われ、その後、却下されました。2 日目の昼には、間違いなく確実に 膠着状態でした。この会議に出席した役員は次の通りです。副会長の Larry Paul、South Central Regional Director, Arthel Scheuermann, Southeast Regional Director, Jim Costello, Southwest Regional Director, Les Hight, Northwest Regional Director, Jacob Ash, Canadian Regional Director, Jeanne Jeffrey, Executive Secretary, Cora Swan South Central Regional Director, Aethel Sheuermann, Southeast Regional Director, Jim Costello, Southwest Regional Director, Les Hight, Canadian Regional Director, Jeanne Jeffrey, Executive Secretary, Cora Swan(この役職には理事会での投票権があった)、会報編集者の Ed Rugenstein、前会長の Lila Rippey と私である。さらに、フロリダの Barbara Reark 夫妻、テキサスの Nancee Beamer 夫妻など、強力なサポーターの参加も心強かったです。昼食後に再集合しましたが、同じように強硬な抵抗にあい、妥協は不可能であり、実現しないことが明らかになりました。この時、Jim Costello は、「会員に対する義務を果たすことは不可能だと確信した」と言い、辞任してしまいました。この後、Arthel Scheuermann、Larry Paul、Les Hight、そして私が辞職しましたが、皆同じ理由で、「有権者に対する義務を果たすことができなくなった」と述べています。Jeanne Jeffrey and Jacob と Ash stated は、会員と話し合うと言いました(数週間後、Jeanne Jeffrey が私たちのグループに加わりました)。爆発の後、瓦礫だけが残り、埃が晴れ始めた時、突然、私たちは、少なくとも当分の間、任務を果たせなくなったのだと実感しました。私たちの中には、「理想的な猫登録制度」のあり方について、少なくとも心の中では高尚な考え、あるいはビジョンや夢を持っていた者がいたことは認めざるを得ません。当然のことながら、私たちは強い抵抗を受け、新しく選ばれたグループと「守旧派」の哲学には大きな違いがあることをすぐに思い知らされました。不動といえいいのでしょうか。部屋に戻って、少し休み、考えを整理し、当面の猫趣味について考え、夕食を食べながら再会することにしました。私たちが実際に行ったのは、無数の電話をかけてきて、スクラッチポストやユーモアを切り札に、まるでソープオペラのようなこのシナリオの最新エピソードを伝えることでした。もちろん、猫好きというのはそういうものです(1979 年も基本的に同じだ)。このニュースはハリケーンよりも早く広まり、ミズーリ州 Branson の電話回線は大混乱に陥りました。何百人もの友人や猫好きが、最新情報を得るためにモーテルの電話交換機に殺到したのです。このとき、私たちはそれぞれ、いわば「水面下でのテスト」を行いました。もし、私たちが別の協会を設立することになったら、あなたは賛成してくれますか？その結果、私たちの想像をはるかに超える好意的な反応が返ってきたのです

新しい団体を立ち上げるか(キャットファンシーにはもうレジストリは必要ないという意見でした)、既存の団体に参加するか、急いで撤退してキャットファンシーから離れるか、夕食時に検討し、選択肢(この時点で多くはありません)を決めました。急いで退会することは、絶対にありません。その結果、キャットファンシーを退会するという考えはありませんでした。私たちは、既存の登録団体に参加することは、パレエをする人たちのための西洋の鍬入れのような魅力があると考えたのです。私たちは、既存のレジストリに参加することに満足するには、あまりに革新的で進歩的でしたし、彼らは私たちを街から追い出してしまうでしょう。つまり、現在のレジストリの最も魅力的な特徴を含むように設計された別の猫協会を組織し、専門的な管理を行い、年間賞の祭典を設け、遺伝子登録を始め、ハードカバーの Yearbook を作成し、公式出版物から政治的レトリックを排除するということでした。ただ 1 つの問題は、財政がないことです。1979 年 6 月 22 日(金)の夕方、決定が下されたのです--賽は投げられました。さあ、大変な作業の始まりです。いつ、どこで、どのように？事務所、事務局長、場所、名前が必要でした。Larry Paul TICA(The International Cat Association)を推薦したのはご存知の通りですが、幸いにも私たち全員が賛成してくれました。私たちは、2、3 日前に到着したときの役職と肩書きを維持し、正式な選挙が行われるまで暫定的に機能させることにした。Larry, Arthel, Jim, Les が電話で審査員や他の 3 地域のボランティア、出版物の編集者を募集している間、私は事務局の整理と企画をしました。

Bob Mullenと最近話したことを思い出し、彼が「Let's Make A Deal」で働いていること、ACFAの事務局長になりたいこと、そして彼がカリフォルニアのBurbankに事務所を持っていることを知り、私はすぐに思いつきました。そこで私は1979年6月23日の土曜日の夜、ミズーリ州Springfieldから彼に電話をかけ、新しい猫の協会、さらに言えばその協会(The International Cat Association)の事務局長という役職に興味があるかどうか尋ねたのです。彼は「はい」と答え、一瞬のためらいもなくこの挑戦を引き受けました。猫の協会を作ろうというのは自然発生的なものでした。そこでBobは、私たちがキャッシュフローを得るまでは、週200ドル(飢餓賃金)というわずかな金額で事務所を運営することに同意したのです。

この頃、事務局問題が現実のものとなり、Northeast Regional Director, Helmi Ehrhart、North Central Regional Director, Dr. Patricia Hevenor、Northwest Regional Director, Dan Gornan、編集者のRoland Lindsey、多数の審査員(下記の審査員リスト参照-第2巻の印刷までにほぼ倍増、日本から10人、カナダから7人、ハワイから1人、アラスカから1人)、信じられない数のクラブが「Gusty Clan」への参加を確約してくれたのです。

Bob Mullenは、最初のエグゼクティブ・オフィスを組織、運営し、オフィス機器も自前で揃えました。彼は、1979年7月5日までに、211 East Olive, Suite 201, Burbank, California 91502に、電話機も含めてオフィスを開設し、運営を開始しました。猫の登録、会員登録、キャットリーの申請、手紙、クラブのチャーター申請、ショーのライセンス申請など、車1台分の紙が殺到した。この大洪水は、猫1匹につき1ドルという、ほとんど誰も断れないような登録料の紹介の結果であった。もちろん、登録料が1ドルでは、処理、タイプ、郵送などを考えると、サラリーマンスタッフを維持することは事実上不可能でした。

その後、数週間から数ヶ月の間、Bobの熱心な友人たちからなるスタッフが、郵便物の仕分け、記録の管理、会員証の作成、登録証明書のタイプ準備、猫のコード付けなど、必要なことは何でもやってくれました。猫をコード化する、まったく新しい理論で、新しいシステム-遺伝子登録-を Solveig Pflueger(後に遺伝子委員会の委員長に就任)が設計、開発、提供し、最終的に実行に移したのです。気が遠くなるようなこと、新しい事務所を開設し、文字通り何百匹もの猫を登録し、手紙に返信し、書式を作成し印刷し、会員記録を作成し、新しいクラブがチャーターを待ち、ショー用品を発送し・・・と、新しいシステムを段階的に運用することを試してみたいかがでしょうか？

ミズーリから帰り、神のみぞ知ることに身を投じると、私も他の誰も、そして今でも、まさにその日に一息つけると信じて、自由な時間はありませんでした。しかし、昼も夜も鳴り止まない電話の音とは別に、私は時間を作って最初のTICA通信を編集し、コピーして郵送しました(PDFへのリンクは下記をご覧ください)。これは、猫好きであった人、あるいは過去に猫好きであった人すべてに郵送されました。価格表はTICA Trendの創刊号に掲載されました(下記参照)。この覚書には、「TICA - A TREND TO THE FUTURE IN THE CAT FANCY」というキャプションと、「JOIN THE TREND TO TICA」という締めくくりの言葉が添えられていました。数日後には、ボランティアで編集を担当することになったRoland Lindseyが、すでにニュースレターの創刊を準備していました。その時、私は即座に「TICA Trend」と名付けました。彼は同意し、他の理事も同意しました。このように、「TICA TREND」という名称の由来は、皆さんもご存知の通りです。Rolandはこの時、奥さんのLinda Lindseyの協力のもと、最初のTICA年鑑の編集者になるとは思ってもみませんでした。

Breathing spell? 一度も開発されませんでした。オフィス開設当初から反響は大きく、仕事量は増え続け、Bobはやむなく仲間や友人、そしてもちろん他の猫好きな人たちに仕事を委託するようになりました。協会の歴史が浅く、自然発生的なものであったため、事業運営に必要な出版物や書式を開発・準備するのに数カ月を要しました。そのため、給与を支払うために必要な国庫を作るには、さらに時間が必要でした。1979年11月1日、ジョージア州アトランタで開かれた最初の理事会で、Bobの給与は週給300ドルに引き上げられましたが、彼はその資金をオフィス維持のための経費として自主的に使うことを選択しました。Bobと彼のボランティア・スタッフは、1979年12月に最初のフルタイム従業員が雇用されるまで、この職務を遂行しました。

肉体的、精神的な仕事に加え、ボランティアスタッフたちは、協会の発展のために重要な時期に、精神的な支えも惜しまずに提供してくれました。5月、事務局長の Bob Mullen が、結成以来事務局に殺到していた登録の滞りが解消され、事務処理に余裕ができたことを発表しました。1980年5月事務局は、Bob と彼のボランティア、そして一人のフルタイム従業員で数ヶ月間、現状に沿った不自由な生活を送っていました。しかし、活動が活発化するにつれ、いつまでもボランティアに頼っているわけにはいなくなり、従業員の増員が必要になってきました。

TICA にとって不幸なことに、1980年8月、Bob は(生き残りのために)「Let's Make A Deal」に戻ってきました。彼の退社は、カリフォルニア州 Pasadena で開催された第2回年次理事会と第1回 Annual Award と同時に行われました。第1期(79年1月1日~80年6月30日)の収益は27,000ドル余りでした。1980年9月1日、取締役会により Mark Walters(すでに社員)が2人目のエグゼクティブ・セクレタリーとして選出されました。ここでも Mark は数週間で辞職を余儀なくされるという不幸な出来事がありました。

事務局長の不在、事務局運営に必要な優秀な人材を確保するための資金も時間もない、協会にとってまたもや重要な時期でした。ジレンマに陥りましたが、私たちは長い目で見て、約束を守りました。

エグゼクティブ・オフィスは Burbank にあり、Southwest Region は最も重要な地域なので、この大惨事の矛先はそのリージョナル・ディレクターに向けられました。この年、Les Hight は学業の都合でディレクターを辞任し、Mary Haffner が臨時ディレクターに任命されていた(後に彼女はリージョナル・ディレクターに選出されました)。もちろん、はいわば「指南役」であり、他の TICA 関係者と同様、躊躇することなくその任を引き受け、Marc Costa もすぐにボランティアとしてその任に応じました。この大惨事を処理するために、彼らは一緒に実行可能な契約を考え出したのです。この2人のメンバーには、彼ら自身の人生もあったことを忘れないでください。彼らは、もし理事会の合意が得られれば、事務局長が見つかるまでの間、ボランティアとして共同マネージャーを務めます(無給です)、と伝えてくれました。もちろん、私たちは大喜びで、その申し出を快く受け入れました。こうして、1980年9月中旬に、役員会が発足しました。

事務局は、彼らのもとで順調に機能しました。しかし、このままではいけないと、理事会は適当な正社員を探し続けました。そして、ついに南東部の Jim Costello が、ビジネス・マネージャーの職に興味を示し、カリフォルニアへの異動を承諾してくれました。理事会は、この人事を承認し、ジムは1981年2月下旬から週給300ドルの給与で働き始めました。1981年11月、Jim が、この給料で幼い息子を養うことは不可能であることが明らかでした。彼は、収入と支出の状況を理事会に報告していました(支出が収入を上回った)。

1982年2月中旬、私はカリフォルニア州バーバンクに行き、私たちが置かれている状況について個人的に観察してきました。事務所に着くと、3人の正社員(Jim Costello, Carol Seigal, David Villarreal)と1人のパートタイム社員(Ron Durkell)、そして契約社員1人(Bob Mullen)が働いている状態でした。そして、私たちの負債が天文学的な数字になり、2万ドル以上もの借金があることを知りました。内国歳入庁(協会に先取特権を申請中)、カリフォルニア州(雇用開発局)、ゼロックス社、PIP(プリンター)、オフィスサプライ、キャッツマガジン、パシフィックテレホン、そして Bob Mullen にも、(在職中の)営業経費とオフィス機器のレンタル料として支払った給与の一部が払い戻されていないことがわかったのです。

TICA の歴史において、もうひとつの重要な時期が訪れました。私たちが直面していた財務状況では、Jim の給料を上げることは不可能だったので、彼は1982年2月25日に辞職しました。もちろん、後任を採用する資金も、給与を支払う資金もまだありませんでした。私は、数日滞在するつもりが、3ヶ月余り滞在することになりました。この間、私はオフィスを完全に任されることになり、Carson の Mary の家に寝泊まりし(バーバンクまでの往復は、ロサンゼルスを横断するような長距離ドライブでした)、その後バーバンクに移り住みました。土日も含めて1日平均10時間は Office で過ごしました。ショーの審査や、Mary と一緒にサンタ・カタリナ島やグリフィス・パークに行き二人のストレス解消をする以外は、、、、

これ以上、借金を重ねられないことは明らかで、IRS やカリフォルニア州とも何度も話し合いました。最終的に、私たちは支払いスケジュールを調整しましたが、数年にわたる不況の時期には、グリーンバックは希少なものでした。もちろん、もう雇っていないビジネス・マネージャーの給料として週300ドルは、未払い金に充当しました。

(これは、私の時間を寄付し、給料を払わず、私がビジネス・マネージャーを務めていたからできたことです)。

借金を返すだけでなく、私たちが思い描くような状態に協会を作り上げるには、数ヶ月では足りないことは明らかでしたが、献身的な努力で達成できることは分かっていたのです。協会をビジネスとして機能させ、同時に支払い能力を身につけることが不可欠でした。3月1日には、ビジネス・マネージャーを募集するとの知らせが届き、次号の「TICA Trend」には、まさにそのための記事が掲載されました。Greensboro で開催された Semi-Annual meeting では、Business Manager のポジションに数名の応募があり、6月1日までに応募をするように他の人にも呼びかけました。応募書類のコピーは、各理事用に十分な部数を添えて事務局に送付することになりました。申請書には、予想される給与、事務所の移転が提案された場合の人件費、移転先の事務所スペースの費用を記載することになっていました。多くの申請があり、オフィスはさまざまな場所に移動することになりました。フロリダ州 Port Lucie、ワシントン州 Seattle、アイダホ州 Boise、テキサス州 Houston、サウスカロライナ州 Charleston など、数え上げればきりがありません。例外なく、オフィスの家賃は高く、従業員の給料は Burbank とほぼ同じだったが、ビジネス・マネージャーの給料は年間平均 25,000ドル(約 2500 万円)に設定されました。協会は財政的に危機的な状況にあり、申請書にあるような年俸を支払う資金がなかったため、どれも受け入れられませんでした。1981-1982 年度の収入は 3 万ドル強であったことをご承知おきください。

この間、理事会のメンバーの何人かは、私がカリフォルニアに残って事務局を管理しないかと尋ねてきました。というのも、私の所有物(自宅やその他の不動産)は、わずかな衣類と車のほか、すべてテキサスにあったからです。私は、協会に資金が入り、正社員のビジネス・マネージャーを雇えるようになるまで、暫定ビジネス・マネージャーとしてテキサス州 Harlingen のエグゼクティブ・オフィスを管理することを申し出ました(無給で時間を提供し、ジャッジも休職する)。理事会は、エグゼクティブ・オフィスを移転し、ビジネス・マネージャーの正社員への応募期間を延長することを決定しました。すべての応募書類は、1983 年の年次総会の 1 カ月前までに提出されなければなりません。理事会は、反対票を投じることなく、事務局をテキサス州 Harlingen に移転することを要請しました。

この決断は、1982 年 5 月初旬になされました。私は直ちに移転の準備に取りかかり、銀行口座を開設し、私書箱を取得し、事務所スペースを確保し、Harlingen に電話を設置し、さらにすべての用紙、出版物、文具に新しい住所を刻印し、TICA Trend に告知を掲載しました。TICA で働いていた従業員のうち、一人 David Villarreal だけが協会に残り、事務局とともにテキサスへ移ることを選択しました。実際、彼は私たちの財産、資産、負債をすべて積んだ U-Haulトラックを運転しました。Jim Costello が 75ドルで購入した机と飾り棚、購入手続き中だったゼロックス機(まだ 2500ドルの借金がある)。タイプライターデスクとおんぼろ椅子、引き出しの壊れた学生机、再調整が必要なタイプライター 2 台、中古電卓 1 台、中古ファイルキャビネット、201 の箱(猫の個別ファイル)、ホッチキス、用紙、そして一生分の借金を背負ったのです。

1982 年 5 月 28 日、David は私たちの財産を携えて Burbank を出発し、6 月 1 日にテキサス州 Harlingen に到着しました。私たちはトラックから荷物を降ろし、1982 年 6 月 2 日に営業を開始しました。到着すると、郵便受けはすでに処理するための書類であふれかえっていました。David と私は、7 月まで何とか仕事を続けましたが、仕事量は増え続け、実際、殺到しそうな状態でした。その後、Betty Moss を雇い(月給 800ドルという破格の給料)、さらに Del Diaz をパートタイム(最低時給 3.35ドル)で雇い、その後フルタイムに移行した。3 人の従業員を迎え、私は印刷会社、製紙会社、事務用品、機器のメンテナンス契約、UPS、フェデラル・エクスプレス、テキサス州への法人書類の提出、標準作業手順書、スタッフのガイドラインなどを作成する時間を持った。それでも私たちは砥石に鼻をつけ、仕事の量は常に増え続け、協会は債権者に支払いを続けていました。しかし、私たちの財政的な未来は明るい。82 年 7 月 1 日から 83 年 6 月 30 日までの会計年度の収益は、84,000ドル以上でした。

Annual 理事会は、1983 年 9 月 1 日から 4 日まで、フロリダ州 Jacksonville で開催されました。ビジネス・マネージャーの応募がなかったため、Betty がその職に任命される半期理事会まで、私は暫定的なビジネス・マネージャーを続けました。残念ながら、彼女は 1984 年 2 月 22 日、夫の転勤で突然辞任することになり、私は暫定ビジネス・マネージャーとして復帰しました。Betty の後任として、Leslie Bowers が事務アシスタントとして採用され(給与は従来どおり月給 800ドル)、1984 年 2 月 28 日

に着任しました。収入はまだ増えており、もちろん支出も増えていました。しかし、IRSからの借金の支払いはまだ残っていましたが、他の債権者にはすべて支払いを済ませました。

1984年の夏、理事会はそろそろ正社員のエグゼクティブ・セクレタリーを雇う時期に来ていると考えました。1984年8月22日から24日にかけて開催されたAnnual理事会ですべての応募書類が審査され、Don Shawが選ばれました。給料は月1,000ドルで、1984年12月1日に月1,400ドルに引き上げられ、彼は引き続き審査にあたることになりました。この措置は、従業員が1人増えることを意味し、この時点では、協会はこの金額で給与を増やすことができる状態ではありませんでした。Davidは月給1,195ドル、Leslieは月給800ドル、Delは週給150ドル、パートタイム(Lorraine)は時給3.35ドルでした。2人を解雇するか、1人を解雇するか、すぐに決断しなければなりません。ましてや、これまで3,000時間以上かけて育ててきた社員を、2人も失うわけにはいきません。つまり、新入社員の給料に見合った給料をもらっているほうを解雇することになる、つまり、Davidということ、協会としては、両方の給料を財政的に受け入れることはできないからです。

1984年10月3日、ドンは出勤しました。もちろん、住居を探し、引っ越し、生活を整えるための時間は必要であったし、審査員としての仕事もあり、通常金曜日と月曜日は事務所を不在にしなければならないため、書類整理を滞りなく進めることができないという問題もあった。この問題を解決するために、パートタイムの従業員をフルタイムに昇格させました。私は昼夜を問わず働いていたのだが、トンネルの先に光が見えるような状況ではなかった。12月末にはLeslieとLorraineが辞職し、1月末にはDelが辞表を出すなど、協会にとってまたもや大惨事となった。このままではいけないと思い、理事会の承認を得て、ドンは1985年2月7日に解任された。

デービッドは就職先が決まっていなかったが、他の3人の元社員は別の就職先が決まっていたので、私はデービッドに前の職場に戻るよう説得した。結局、私は幸運にもレスリーとロレインに元の職場に戻るよう説得し(3月初旬)、彼らの地位の永続性に関わる懸念から両者の給与は上がったが、取締役会の承認を得た契約書を使って、適切な契約を取り交わした。デルは別の職を確保したため、復帰しないことになった。3月1日、レスリーはエグゼクティブ・セクレタリーに任命され、1986年のカリフォルニア州サンラファエルでの年次総会で、取締役会はビジネス・マネージャー／エグゼクティブ・セクレタリーに任命し、彼女は現在もそのポジションに就いています。

ロレインは同じポジションで復帰し、その後、郵便物の処理、預金の準備、クラブのチャーター記録の管理などを担当した。彼女は今でも従業員です。

過去20年間、私たちは負債、訴訟、訴訟の脅威、IRSの監査、競合他社、噂、さらに噂を乗り越え、多くのエグゼクティブセクレタリー/ビジネスマネージャー、地域ディレクター、ボランティアポジション、委員会(委員長とメンバーの両方)の多くの変更、TICAトレンドとTICA年鑑の舵取りへの多くのエディター、そしてまだ私たちは生き残っています。また、1984年に国税庁への借金をすべて返済し、1994年によく理事会を説得し(1991年に私自身が「公認監査」の費用を負担すると申し出た)、理事会はこれを断った)、公認監査の期限はどうに過ぎていることを認め、理事会はこれを了承したのです。公認会計士による監査で、TICAが何年も存続可能なビジネスであったことが明らかになり、財務状況が会計事務所によって検証されたことを誇れるようになり、私たちは皆、喜びをかみしめました。その他の功績としては、すべての猫に栄誉ある称号を与えるための簡略化されたポイントシステムの考案、正式化、活性化、家庭用ペットの登録と特徴ある称号の付与、地域および国際勝者への年間表彰システムの確立、各地域での地域バンケットと表彰式、国際年次大会、バンケットと表彰式(当協会の支援による)の開催、独自の簡素な審査システムの確立(過去のタイトルがわからない状態で参加)、考えられる色の完全目録による遺伝子登録の確立などがあげられます。

TICA Judges List published in the first TICA Trend, July 1979

Judge Emeritus	LH/SH Specialty	Guest Judges (AllBreed)
Mrs. Rosamund Flynn	James Becknell	Ed Bowers
	Peggy Churchill	Sharon Carl
AllBreed Emeritus	Prissie Conner	Marcie Findley
Edward Brehm	Michael Durham	Carolee Hubbard
Anne Chapman	Kay Hanvey	Betty Meins
Betty DeHay	Ruth Hammerle	George Silva
Marjorie Hanna	Jerry Hemme	Mary Snyder
Patricia Harding	Dawayne Goodburn	
Les Hight	Cris Jonson	Training Status LH/SH
Jeanne Jeffrey	William R Jonson	Stanley Bass
Georgia Morgan		Nancee Beamer
Maureen Nottingham	Probationary LH/SH	Sue Becknell
Yvonne Patrick	Specialty	Sue Boykin
Larry Paul	John Burch	Marilyn Cole
Jane Rebello	Irma Castle	Roland Lindsey
Gloria StephensRoxie Belk	James Costello	Mrs. Pat Smith
Spight	Joyce Davis	Arthel Scheuermann
Phyllis Whitney	Beth Hicks	Jill Berger Eisenhuth
Bert Williams	Charlotte Leutze	Michael Winters
Grace Woodman	Solveig MV Pflueger	Marti Poff

今世紀初頭に最初の協会が設立されて以来、キャットファンシーに登場したすべての新しい組織や企業と同様に、TICA も少数の人々の強い信念によって設立されました。猫の協会は、すべての猫に平等な代表権を与え、科学研究者と緊密な連携を保ち、キャットファンシーがエリート集団であり続けるための手段を提供し、愛好家、ブリーダー、出展者、ショーの観客の間で常に仲間意識を促進すべきであること、協会はビジネスとして運営され、統治は協会の目標を支援するための連続した行動として処理され、常にオープンな進歩的マインドを持って機能し、変化を受容することが肝要なこと、などです。

もちろん、TICA を当初から際立たせていたのは、キャットファンシーに提供された代替オプション、即効性、そして短期間での運営開始という突然の驚異的な上昇でした。私たちの前向きな決断が発表された後、数日、数時間のうちに、地域ディレクター、事務局、編集者、素晴らしい審査員、新しいクラブが TICA に加盟し、ショーのスケジュールを立てることが出来ました。ボランティアの数は信じられないほどで、最初とその後の数年間、ビジネスの成功に不可欠なポジションを埋めるために任命を待っていました。その一部を紹介します。

- TICA トレンドエディターのローランド・リンゼイ、フランシス・ヨー、プリッシー・ラジャウニー、ナンシー・ノレン、ロンとウエンディ・クラム、レスリー・バウワーズ、アリス・レア、そして現在はキャシー・ウェルチです。
- YEARBOOK 編集者: ローランド・リンゼイ、アリス・ハンビー、ナンシー・ノレン、ジェリー・トンプソンと続き、現在はナンシー・ノレンに引き継がれています。
- 遺伝学委員長、ソルヴェイグ・ブルーガー。
- TICA スコアラー、スー・サーヴィス。
- トレーニング & ディベロップメントディレクター、後のジャッジングアドミニストレーター、グロリア・スティーブンス(最初の一人はウッディ・ライス)。

- クラキングプログラムディレクター、Ken Ehrhart、その後、Sue Pannell、Nancy Turner (現 Parkinson)、Vickie Shields、Dewane Barnes が続く。

- 投票審査員のブレンダ・キヌネン、メアリー・ハフナー、そしてマージ・ハンナ。

もちろん、月日が経つにつれ、多くの委員会が設立され、定員に達しました。品種委員会を埋める最初の選挙は 1980 年 3 月に行われ、会長、副会長、地域理事の最初の選挙は 1980 年 10 月に実施されました。実際、最初の TICA ショーは、ミズーリ州ブランソンからの呼びかけの 5 週間後に開催されました。

この第 1 回ショー「A Midsummer Night's Dream」は、1979 年 7 月 28 日にワシントン州タコマ近郊のフォートルイスで開催されました。このイベントはワシントン州オリンピアの Olympicats (Lance Metcalf、共同ショーマネージャー) とワシントン州スポケーンの Quality Cats (Dan Gorman、共同ショーマネージャー) の共同開催で、エントリークラークは Joi McNamara、アシスタントエントリークラークは Bobby Myers (現 Tullo) でした。これらのネコの愛好家たち、さらに約 50 人が、初めてチャーターされた TICA クラブのチャーターメンバーであった。"Commencement" はチャーター 1 号で、再活性化し、1999 年 7 月に 20 周年記念ショーを開催します。カナダでの最初のショーは、"White Hatters Cat Fanciers" の主催で 1979 年 10 月 7 日、アルバータ州レッドディアで、ハワイでの最初のショーは、"Mid-Pacific Cat Fanciers" の主催で 1980 年 2 月 23 日、ホノルルで、アラスカでの最初のショーは "Alaskats" の主催で 1980 年 5 月 3~4 日、アラスカのアンカレッジで開かれた。注目ポイント 北米大陸以外で初めて国際的な存在を確認した地域は日本で、初代国際地域ディレクターは根上淳氏、次いで大平千恵子氏が就任しました。全日本クラブが主催する最初の TICA ショーは、1980 年 3 月 2 日、名古屋で開催されました。

この記事の中で名前が挙がっている何千人もの猫愛好家の方々、そして名前が挙がっていないの方々、例えば、猫の登録、展覧会、タイトルの請求、TICA クラブの設立、ショーの開催、新しい試みへの無条件の支援をしてくださった会員に賞賛と賛辞を送りたいと思います。

この記事を書き始めてから、過去のことを改めて考えてみると、すべてが夢物語のように思えてきました。そうかもしれません。しかし、なんと素晴らしい夢なのでしょう。

自分を信じ、同世代の人たちの能力を認め、変化を受け入れ、日々の挑戦を躊躇なく行えば、どんなことでも成し遂げられるというのが、私の信念であり、お別れの言葉です。The International Cat Association, Inc.™ (TICA) は、少数の人々の自発的な夢が現実になったものです。私たちが国際的な猫協会のために持っていたものは、「私たちの言葉」と、「盲信」して TICA に移住してきた何千人もの熱心な猫愛好家、そして彼らのサポートだけだった、私たちの謙虚な始まりから。1979 年 6 月、TICA が国際的な猫協会となったその日以来、ショー、出展者、収益、会員、クラブのチャーター、登録数など多くの指標に基づき、その成長パターンは不変のものとなっています。1998 年 7 月 1 日から 1999 年 6 月 30 日までの会計年度の収益は、50 万ドル以上と予想されています。

もし、もう一度やり直せるなら、私はこの努力に参加したいですか？私の答えは、「イエス」です。

On June 22, 1979, The International Cat Association was founded by Georgia Morgan and a handful of cat enthusiasts. Their dream of building the most progressive, flexible and innovative cat registry in the world came true when TICA was formed.

TICA's first show was "A Midsummer Night's Dream" held at Fort Lewis, near Tacoma, Washington, on July 28, 1979. Other "first shows" were in Canada hosted by "White Hatters Cat Fanciers", on October 7, 1979, in Red Deer, Alberta, Canada; Hawaii hosted by "Mid-Pacific Cat Fanciers", on February 23, 1980, in Honolulu, Hawaii; Alaska hosted by "Alaskats", on May 3-4, 1980, in Anchorage, Alaska.

The first international region confirmed outside of North American was JAPAN. The first international show was hosted by the "All Japan Club", on March 2, 1980, in Nagoya, Japan. Since then TICA has grown to have a club and members in all 50 states of the United States, Europe, Africa, Latin America, and Asia.

TICA salutes the women of the feline world today, on International Women's Day, with a spotlight on TICA Founder Georgia Morgan. Read how Georgia and a handful of cat enthusiasts founded TICA more than four decades ago and how her dream of building the most progressive, flexible, and innovative cat registry in the world became the foundation for TICA.

On June 22, 1979, The International Cat Association was founded by Georgia Morgan and a handful of cat enthusiasts. Their dream of building the most progressive, flexible and innovative cat registry in the world came true when TICA was formed.

TICA's first show was "A Midsummer Night's Dream" held at Fort Lewis, near Tacoma, Washington, on July 28, 1979. Other "first shows" were in Canada hosted by "White Hatters Cat Fanciers", on October 7, 1979, in Red Deer, Alberta, Canada; Hawaii hosted by "Mid-Pacific Cat Fanciers", on February 23, 1980, in Honolulu, Hawaii; Alaska hosted by "Alaskats", on May 3-4, 1980, in Anchorage, Alaska.

The first international region confirmed outside of North American was JAPAN. The first international show was hosted by the "All Japan Club", on March 2, 1980, in Nagoya, Japan. Since then TICA has grown to have a club and members in all 50 states of the United States, Europe, Africa, Latin America, and Asia.

The International Cat Association was organized/established Friday, June 22, 1979, in the Ozark Mountains of Missouri. The village of Branson (near Point Lookout) was the birthplace of our illustrious Association. Historical markers were never put in place, but most certainly the spontaneous dream of a handful of cat enthusiasts, reinforced by their courage, foresight, and intestinal fortitude that inspired the establishment of TICA are worth remembering. They have served as the endowment of the most progressive, flexible, and innovative cat registry in the world.

As the newly elected President of ACFA, I called a Board Meeting at Point Lookout, Missouri for Wednesday, June 20, 1979 to enable the elected members of the Board of Directors to observe firsthand the workings of the Central Office, to review established policy, to meet the employees, to establish a preliminary budget, to work out some existing irregularities, and to establish a congenial working relationship with the entire Board; our first Annual Meeting was scheduled in less than 3 months. It was extremely important that the group work harmoniously, address the issues causing concern with the membership, and be aware that ultimate changes were vital. Over a 2-day period all attempts to establish an amenable working relationship, to go forward with a hardbound yearbook, to work on a revised judging system, to promote recognition for Household Pets, and to present a budget for the Association were discussed at length and subsequently rejected. By noon of the second day, we had definitely reached a stalemate

The Board Members that attended this meeting were: Vice-President, Larry Paul, South Central Regional Director, Arthel Scheuermann, Southeast Regional Director, Jim Costello, Southwest Regional Director, Les Hight, Northwest Regional Director, Jacob Ash, Canadian Regional Director, Jeanne Jeffrey, Executive Secretary, Cora Swan (this position had voting privileges

on the Board of Directors), Bulletin Editor, Ed Rugenstein, previous President, Lila Rippey, and myself. Additionally, we were encouraged by the presence of some other stalwart supporters, Jack and Barbara Rreak from Florida, and Nancee Beamer of Texas.

We reconvened after lunch and experienced the same hard-nosed resistance, making it evident no compromise was possible and would never materialize. At this point, Jim Costello said he was convinced that it would be impossible to fulfill his obligations to the membership, and then he resigned. This action was followed by the resignations of Arthel Scheuermann, Larry Paul, Les Hight, and myself, all stating the same reason: we could no longer fulfill our obligations to our constituents. Jeanne Jeffrey and Jacob Ash stated they would discuss it with their membership (a few weeks later Jeanne Jeffrey joined our group). When the dust started to clear after the explosion, leaving only the debris, it suddenly hit home we were through, at least for the moment.

I must admit some of us had lofty ideas, perhaps a vision or a dream, at least in our minds about how the "Ideal Cat Registry" should function. Quite naturally we were met with staunch resistance and learned quickly there was a major difference in the philosophy of the newly elected group and the "old guard". How do you say immovable object?

We decided to go back to our rooms, get some rest, collect our thoughts, ponder about our immediate future in the cat fancy, and reconvene over dinner. What we actually did was return a myriad of telephone calls, relaying the most recent episodes in this scenario which sounded like a soap opera, using scratching posts and humor as prompting cards. Of course the cat fancy being what it is (basically the same in 1979), the news spread faster than a hurricane, which of course created absolute chaos with the telephone lines into Branson, Missouri: hundreds of friends and cat fanciers had been jamming the Motel switchboard the entire week to keep current on the latest developments. Remember – we only had "Hot Air Balloon" service at our location. During our conversations, each of us "tested the waters", so to speak: WHAT IF, we decided to establish another association – would you be in agreement – are you interested??? The overwhelmingly positive response was beyond our wildest dreams.

We deliberated during dinner, reviewing and discussing our options (not many at this point): organize a new association (we certainly were of the opinion that the cat fancy didn't need another registry), join an existing group, or make a hasty retreat and leave the cat fancy. Make a hasty retreat, absolutely not, consequently, we never entertained the idea of leaving the cat fancy. Collectively, we decided joining an existing registry had all the appeal of a western hoe-down for ballet performers. We were far too innovative and progressive to be satisfied with joining an existing registry, besides they would have run us out of town on a rail. So that left only one solution: organize another cat association designed to include the most attractive features from current registries, implement professional management, establish an Annual Awards extravaganza, start a Genetic Registry, produce a hardback Yearbook, and eliminate political rhetoric from the official publications. Only one problem: no finances. No matter how you cut it, the decision to go for it was made Friday evening June 22, 1979 – the die was cast. So head first we took the plunge.

Now the hard work commences. HOW, WHEN, WHERE? We needed an office, an Executive Secretary, a location, a name. Wouldn't you know Larry Paul recommended TICA (The International Cat Association) and fortunately we all agreed. We decided to retain the position and title we held upon our arrival two or three days earlier, and function in interim status until an official election could be held. While Larry, Arthel, Jim, and Les were on the phone recruiting judges, and volunteers to serve the other three regions and an Editor for our publications, I was organizing and planning the Executive Office. Recalling a recent conversation with Bob Mullen, concerning his employment with "Let's Make A Deal", his interest in becoming Executive Secretary of ACFA, and knowing that he maintained an office in Burbank, California, gave me an instant thought – maybe, just maybe Bob would be interested. So I called him Saturday night, June 23, 1979, from Springfield,

Missouri, and asked if he were interested in a new cat association, and more importantly, the position of Executive Secretary of that association (The International Cat Association). He said yes, and accepted the challenge without a moment's hesitation. Since the thought of another cat association had been spontaneous; we certainly didn't have a treasury, and no legacy, not even enough to rent office space or pay an employee (in fact not one red cent). So Bob agreed that until we had acquired a cash flow, he would run the office for the paltry sum of \$200.00 a week (Starvation Wages).

By this time with the Executive Office issue a reality, the rest of our group had secured a Northeast Regional Director, Helmi Ehrhart, a North Central Regional Director, Dr. Patricia Hevenor, a Northwest Regional Director, Dan Gornan, an Editor, Roland Lindsey, a slew of judges (see the list of judges below – this almost doubled by the printing of the second volume, including ten from Japan, seven from Canada, one from Hawaii, and one from Alaska), and an unbelievable number of clubs had made a commitment to join our "Gusty Clan".

Bob Mullen organized, and managed the first Executive Office, and furnished his own office equipment. He had the Office open and operational at 211 East Olive, Suite 201, Burbank, California 91502, even including a telephone, by July 5, 1979. The Office was inundated in less than a week after opening, with an avalanche of documents for processing, which included cat registrations, membership and cattery applications, letters, applications for club charters and show licenses... enough paper to fill a boxcar. This deluge was the result of an introductory offer of \$1.00 per cat for registration, an offer almost no one could refuse. Of course, with the fee at \$1.00 per registration, after processing, typing, mailing, etc., it was virtually impossible to maintain a salaried staff.

During the ensuing weeks, which crept into months, Bob's staff (made up of his enthusiastic friends) came to sort mail, maintain records, prepare membership cards, type, code the cats, preparatory to typing registration certificates, and whatever else needed to be done. CODE the cats? Yes, a completely new theory, and a new system – a genetic registry – designed, developed, and furnished by Solveig Pflueger (later appointed as chairman of the Genetics Committee), which was eventually implemented. Mind-boggling? Try phasing in and making a new system operational, just when you have opened a new office, with literally hundreds of cats to be registered, letters to be answered, forms to be developed and printed, membership records to be prepared, new clubs waiting for their charters, show supplies to be shipped... remember, our first TICA show was held July 28, 1979.

Upon my return home from Missouri, and just committing myself to God only knew what, I didn't have a free moment, neither did anyone else and still don't, believing that very day there would be a breather. But, aside from the constant ring of the telephone (day and night), I made time to compile, copy and mail the first TICA communication (see below for link to PDF). This was mailed to every person who was or who had ever been in the cat fancy. The price list appeared in the first issue of the TICA Trend (see below). This memorandum was captioned "TICA – A TREND TO THE FUTURE IN THE CAT FANCY", and a closing remark "JOIN THE TREND TO TICA". In a matter of days, Roland Lindsey, our newly appointed volunteer Editor was already preparing the first issue of our newsletter. During one of our many telephone conversations, he asked, what will we call the newsletter, and almost instantly I said call it the "TICA Trend". He agreed and so did the rest of the Board members. So you can see first hand what inspired the name of our "TICA Trend". Little did Roland know at that moment that he would (with the able assistance of his wife, Linda Lindsey) also be the Editor of the first TICA Yearbook. Breathing spell? One never developed. From the time the Office opened, the response was overwhelming, and the workload increased to the point where Bob was forced to farm the work out to associates, friends, and of course, other feline enthusiasts. Due to the infancy of our Association, and our spontaneous eruption, it took months to develop and prepare the publications and forms that were required for operation of the business. This meant even more time was required to build a treasury necessary to pay salaries. During our first Board of Directors meeting in Atlanta, Georgia, November 1, 1979, Bob's

salary was increased to \$300.00 per week, however, he voluntarily elected to use those funds to offset the expenses in maintaining the Office. Bob and his volunteer staff functioned in this capacity until December of 1979, when the first full-time employee was hired. In addition to the physical and mental work, these volunteers who graciously gave freely of their time also furnished their moral support at a crucial time in the development of our Association.

The Executive Office crippled along status quo for a few months with Bob and his volunteers, and one full-time employee. With increasing activity, the workload demanded additional employees because it is impossible to rely on volunteer labor forever. May of 1980, our Executive Secretary, Bob Mullen announced that the backlog of registrations which flooded the Office since the formation had been cleared, and paperwork was being handled on a current basis.

Another critical period in the history of TICA. With the financial status we were facing, there was no way we could increase Jim's salary, so he resigned February 25, 1982. Of course we still didn't have funds to recruit a suitable replacement, or even pay the salary. Instead of staying a few days, which had been my intent, I ended up staying a little more than three months. During this period of time, I took complete charge of the Office. First bunking with Mary in Carson (quite a long drive back and forth through heavy traffic to Burbank – actually clear across Los Angeles), and then finally moving into Burbank. I spent an average of ten hours a day in the Office, including Saturday and Sunday, unless I was judging a show or going with Mary to Santa Catalina Island or Griffith Park, stress relief for us both.

It was obvious we could not continue going further in debt (beside the breath of the IRS was getting hotter); I had several conferences with them, and the State of California. Eventually we worked out a payment schedule, but green backs were a scarce commodity during those lean months that evolved into a couple of years. It was scrape and save, of course the \$300.00 a week that had been designated as salary for a Business Manager (that we no longer employed), was applied to our outstanding indebtedness (this was possible because my time was donated, no salary and I was acting as Business Manager). It was obvious to me that it would take more than a few months to not only pay our debts, but to build the Association to the status we envisioned, but I knew it could be accomplished with dedication and hard work. It was imperative that the Association function as a business, and at the same time acquire solvency. The word went out by the 1st of March that we would be recruiting for a Business Manager. An article appeared in the next issue of the TICA Trend to do just that. The Board of Directors received several applications for the Business Manager position at the Semi-Annual meeting in Greensboro, and invited others to submit applications before June 1st. Copies of the application were to be sent to the Executive Office, with sufficient copies for each Board member. The application was to include anticipated salary, cost of labor if a move of the Office was proposed, and the cost of office space in the proposed location. We received numerous applications, requiring the Office to be moved to various locations: Port Lucie, Florida; Seattle, Washington; Boise, Idaho; Houston, Texas; and Charleston, South Carolina, to name just a few. Without exception, the office rent was higher, and employee salaries were about the same as Burbank, but the Business Manager salary was placed at an average of \$25,000.00 annually. Since the Association was in critical condition financially, and didn't have the funds to pay an annual salary, as stipulated in the applications, none of them were accepted. Please be aware that revenue for fiscal year 1981-1982 was just over \$30,000.00.

During this time some of the Board members asked if I would remain in California and manage the Office. This was of course impossible because everything I owned (my home, and other real estate properties), besides a few clothes and a car were in Texas. I offered to manage the Executive Office in Harlingen, Texas, as Interim Business Manager (donating my time – with no salary, and taking a leave of absence from judging), until the Association was solvent and could pay a permanent Business Manager. The Board of Directors voted to relocate the Executive Office, and to extend the time for interested persons to

apply for the permanent position of Business Manager. All applications had to be submitted no later than one month prior to the 1983 Annual meeting. The Board, without a dissenting vote, requested that I relocate the Office to Harlingen, Texas. Unfortunately for TICA, in August of 1980 Bob (for the sake of survival) returned to "Let's Make A Deal". His exit came simultaneously with the second Annual Board of Directors meeting, and the FIRST Annual Awards ceremonies, held in Pasadena, California. Revenue for the first fiscal year (07/01/79-06/30/80) was a little more than \$27, 000.00. September 1, 1980, Mark Walters (already an employee) was selected by the Board of Directors as the second Executive Secretary. Again, an unfortunate event as Mark was forced to resign within a couple of weeks.

Another crucial period for our Association, no Executive Secretary, practically no funds or time to recruit the caliber of employee that was required to manage the Office. Really a dilemma, but we were still in it for the long haul, and upheld our commitment.

Since the Executive Office was in Burbank and most importantly the Southwest Region, the brunt of the catastrophe fell on that Regional Director's head. Les Hight had resigned earlier in the year as Director due to pressing matters at school, and Mary Haffner had been appointed Interim Director to finish the term (she was later elected as Regional Director). Of course Mary was the "Point Man", so to speak, and like all TICA people she accepted the challenge without hesitation, with the able assistance of Marc Costa who immediately responded by volunteering his services. Together they came up with a workable agreement to handle this latest catastrophe. Please remember these two members also had a life of their own. They said, if the Board was in agreement they would function as Co-Managers in a volunteer status (no salary I might also add) until we could locate an Executive Secretary. Of course we were exuberant, and graciously accepted their offer. This action took place around the middle of September 1980.

The Office functioned smoothly and efficiently under their management. However, this arrangement could not go on indefinitely, so the Board continued to search for a suitable permanent employee. Finally Jim Costello, the Southeastern Regional Director said he was interested in the position as Business Manager, and he agreed to make the move to California. The Board approved his appointment and Jim started in late February 1981, with the existing salary of \$300.00 per week. By November of 1981 it was evident to Jim that it was impossible for him to exist on this salary, and support a young son. He had kept the Board advised on the status of revenue, and expenditures (expenditures surpassed revenue).

The middle of February, 1982, I drove to Burbank, California to make a personal observation about the predicament we were in. When I arrived at the Office there were three full-time employees (Jim Costello, Carol Seigal, David Villarreal), one part-time employee (Ron Durkell) on the payroll, and one employee (Bob Mullen) in contract labor status. Then I learned that our liabilities were astronomical, we owed over \$20, 000.00 to: The Internal Revenue Service (in the process of filing a lien on the Association) for nonpayment of taxes or 940's and 941's, the State of California (Employment Development Department), Xerox Company, PIP (printer), Office Supply, Cats Magazine, Pacific Telephone, and even Bob Mullen had not be reimbursed for the part of his salary he had used for operating expenses (during his employment), plus rental fee for his office equipment.

This decision was made early in May 1982. I immediately started making preparations for the move, by opening a bank account, obtaining a post office box, securing office space, and a telephone in Harlingen, plus all the forms, publications, and stationary were stamped with our new address, and a notice was placed in the TICA Trend. Of the employees that worked for TICA, only one, David Villarreal, elected to stay with the Association, and move to Texas with the Office. In fact he drove the U-Haul truck with all our worldly possessions/assets/liabilities: a desk and credenza for which Jim Costello had paid \$75.00, a Xerox machine that we were in the process of purchasing (we still owed \$2, 500.00), one typewriter desk and one rickety chair, one student desk with broken drawers, two (donated) typewriters that required reconditioning, one used

calculator, a used file cabinet, boxes of 201's (individual cat files) a staple machine, forms, AND enough indebtedness to last a lifetime.

David left Burbank May 28, 1982, with our worldly possessions, and arrived in Harlingen, Texas, on June 1st. We unloaded the truck, and were open for business June 2, 1982. Upon our arrival the post office box was already brimming with documents for processing. David and I managed to keep the work current until July with the workload kept increasing, in fact we were becoming inundated. I then hired Betty Moss (for an unbelievable salary of \$800.00 per month), followed by Del Diaz in part-time status (minimum wage - \$3.35 per hour) who later moved to full-time. With three employees on board I had time to establish accounts with the printing company, paper company, office supply, maintenance agreements for equipment, UPS, Federal Express, and file the Corporation documents with the State of Texas, prepare standard operating procedures, and guidelines for the staff. We still had our noses to the grind stone, the work load was constantly increasing, and the Association was still making payments to our creditors. However, our financial future looked brighter: revenue for fiscal year 07/01/82-06/30/83 was over \$84, 000.00.

The Annual Board meeting was held in Jacksonville, Florida, September 1-4, 1983. No applications for Business Manager were presented, so I continued as Interim Business Manager, until the Semi-Annual Board meeting when Betty was appointed to that position. Unfortunately she had to resign quite suddenly on February 22, 1984, when her husband was transferred, and I returned as Interim Business Manager. Leslie Bowers was hired as an Administrative Assistant (salary still \$800.00 per month) to fill the position vacated by Betty, and came on duty February 28, 1984. Our revenue was still increasing, and of course so were our expenditures; however, while still paying on the IRS indebtedness, all other creditors had been paid.

In the summer of 1984, the Board of Directors felt it was time to employ a permanent Executive Secretary. All applications were reviewed at the Annual Board of Directors meeting August 22-24, 1984, and Don Shaw was selected for the position, with the salary of \$1, 000.00 per month, increased to \$1, 400.00 per month on December 1, 1984, and he would continue judging. This action meant an additional employee would be added to the payroll and the Association was not in position at this point to increase salaries by this amount. David was paid \$1, 195.00 per month, Leslie \$800.00 per month, Del \$150.00 per week, and a part-time (Lorraine) \$3.35 per hour. A drastic decision had to be made quickly, do I terminate two employees or one? There was no way I could afford to lose two well trained employees, not to mention that I had spent more than 3, 000 hours over a period of time to train these employees. That meant terminating the one with the salary commensurate with the new employee's salary coming on board. Which meant David, because the Association could not financially accommodate both salaries.

Don reported for duty October 3, 1984. Of course he needed time to find a residence, move in, and get established, in addition to his judging assignments, which required his absence from the Office usually on Friday, and/or Monday, presented a problem in keeping the document processing current. In order to alleviate the problem the part-time employee was advanced to full-time. The workload was extremely demanding, and the atmosphere strained; I was still working night and day (it seemed), however, it was impossible to see the light at the end of the tunnel. Another catastrophe for our Association, by the end of December both Leslie and Lorraine had resigned, and by the end of January, Del had given her notice of resignation. It was obvious by now this arrangement just wasn't workable, and with the approval of the Board of Directors, Don was terminated on February 7, 1985.

I convinced David to return to his previous position, since he hadn't found employment, but the other three former employees had secured other employment. Eventually, I was fortunate enough to convince Leslie and Lorraine to return to their old jobs

(early March), with a pay increase for both because of their concern surrounding the permanency of their positions, but we worked out a suitable agreement, firmed up with contracts approved by the Board of Directors. Del had secured another position, and would not return. March 1, Leslie was appointed Executive Secretary, and the Board of Directors appointed her Business Manager/Executive Secretary during the 1986 Annual meeting in San Rafael, California, a position she still holds. Lorraine returned in the same position, and later was processing the mail, preparing deposits, and maintaining club charter records. She is still an employee.

The past 20 years we have weathered indebtedness, a lawsuit, threats of lawsuits, an IRS audit, competitors, rumors, rumors, and more RUMORS, and numerous Executive Secretaries/Business Managers; many changes in the Regional Directors, volunteer positions, committees (both chairpersons and members), numerous Editors to the helm of the TICA Trend and the TICA Yearbook; and we still survived. On a lighter side, the indebtedness to the Internal Revenue Service was all paid in 1984, and I finally convinced the Board in 1994 (after I had offered to pay for a "Certified Audit" myself in 1991, which the Board declined), that a Certified Audit was long past due, and they agreed. We were all elated when the Certified Audit from the CPA revealed that TICA had been a viable business for years, but could now BOAST that financial status had been verified by an accounting firm. Some of our other accomplishments include: originating, formalizing, and activating a simplified point system for earning titles of distinction for ALL cats; registration of Household Pets and awarding distinctive titles; establishment of an Annual Awards system for Regional and International winners with each region flaunting Regional Banquets and Awards ceremonies, and an International Annual Convention, Banquet and Awards Extravaganza, supported by our Association; establishment of a unique streamlined judging system, whereby cats are entered without identity – no means of previous titles being available; established a genetic registry with a complete inventory of possible colors.

Like every new organization or corporation that has appeared in the cat fancy since the first association was chartered in the early part of this century, TICA was established because of the strong convictions of a few: that a cat association should give equal representation to all cats, maintain a close alliance with scientific researchers, provide an avenue to insure that the cat fancy remain an elite group, and always promote camaraderie among enthusiasts, breeders, exhibitors, and spectators at the shows; it is imperative that the association be managed as a business, that governing be handled as a continuous action in support of the association's goals, always function with an open progressive mind, and be receptive to change. Of course, what really set TICA apart from the beginning were the alternative options offered to the cat fancy, the instantaneous impact, and the sudden phenomenal ascent to become operational in a short period of time. Within days, even hours after our positive decision was announced to GO FOR IT, we had a full slate of Regional Directors, an Executive Office, an Editor, a fabulous slate of judges, new clubs taking the plunge by affiliating with TICA, and then scheduling their shows. The number of volunteers was incredible, waiting for appointments to fill the positions that were essential to a successful business in the beginning and the following years. Some of these are:

- **TICA Trend Editor**, Roland Lindsey, followed by Frances Yow, Prissie LaJaunie, Nancy Nolen, Ron and Wendy Klamm, Leslie Bowers, Alice Rhea, and currently Cathy Welch;
- **YEARBOOK Editor**, Roland Lindsey, followed by Alice Hanby, Nancy Nolen, Jerry Thompson, and back to Nancy Nolen;
- Genetics Chairperson, Solveig Pflueger;
- TICA Scorer, Sue Servies;
- Director of Training and Development, later Judging Administrator, Gloria Stephens (the first one being Woody Rice);
- Clerking Program Director, Ken Ehrhart, followed by Sue Pannell, Nancy Turner (now Parkinson), Vickie Shields, and Dewane Barnes;
- Ballot Judge Brenda Kinnunen, Mary Haffner, followed by Marge Hanna;

Of course, as months went by numerous committees were established and filled; the first election to fill the Breed Committees was held March 1980; the first election for President, Vice-President and Regional Directors was held in October 1980. In fact, the first TICA show was held five weeks after the rallying calls from Branson, Missouri. This first show "A Midsummer Night's Dream", was held at Fort Lewis, near Tacoma, Washington, July 28, 1979. This event was co-hosted by Olympicats (Lance Metcalf, co-Show Manager) of Olympia, Washington, and Quality Cats (Dan Gorman, co-Show Manager) of Spokane, Washington, Entry Clerk was Joi McNamara, and Assistant Entry Clerk was Bobbie Myers (now Tullo). These feline enthusiasts, plus about 50 more were all charter members of the first TICA club that was chartered. "Commencement", with charter #1, was reactivated and is hosting a twenty-year anniversary show in July 1999. The first show in Canada was hosted by "White Hatters Cat Fanciers", October 7, 1979, in Red Deer, Alberta, Canada; first show in Hawaii was hosted by "Mid-Pacific Cat Fanciers", February 23, 1980, in Honolulu, Hawaii; first show in Alaska was hosted by "Alaskats", May 3-4, 1980, in Anchorage, Alaska. Point of Interest: The first designated region outside of the North American continent that confirmed our International presence was JAPAN, the first International Regional Director was Jun Negami, followed by Mrs. Chieko Ohira. The first TICA show hosted by the "All Japan Club", was held March 2, 1980, in Nagoya, Japan.

Kudos and Accolades to the thousands of feline enthusiasts who have been named in this article, and to those whose names have not been mentioned; for instance, the members that registered their cats, exhibited, claimed their titles, chartered TICA clubs, hosted shows, and gave their unconditional support of a new endeavor.

When I started compiling this article and reiterating the past, it all seemed like a dream. Perhaps it was, but what a fabulous dream.

With a parting word, I can say, and I stand firm on my convictions, that you can accomplish anything if you believe in yourself, recognize the abilities of your contemporaries, accept change as inevitable, and meet the daily challenges without hesitation. The International Cat Association, Inc.™ (TICA) is the spontaneous dream of a few evolved into reality. From our humble beginning, when all we had for an international cat association was "OUR WORD" and thousands of devoted feline enthusiasts who migrated to TICA with "blind faith", and their support. Since that day in June 1979, when TICA was declared an international cat association, the growth pattern has been constant; based on numerous indicators, such as shows, exhibitors, revenue, members, club charters, registrations, etc. Projected revenue for fiscal year 07/01/98-06/30/99 is over one-half million dollars.

Would I be a part of this endeavor, if I had it to do over again? My answer is a resounding YES.

TICA Judges List published in the first TICA Trend, July 1979

Judge Emeritus	LH/SH Specialty	Guest Judges (AllBreed)
Mrs. Rosamund Flynn	James Becknell	Ed Bowers
	Peggy Churchill	Sharon Carl
AllBreed Emeritus	Prissie Conner	Marcie Findley
Edward Brehm	Michael Durham	Carolee Hubbard
Anne Chapman	Kay Hanvey	Betty Meins
Betty DeHay	Ruth Hammerle	George Silva
Marjorie Hanna	Jerry Hemme	Mary Snyder
Patricia Harding	Dawayne Goodburn	
Les Hight	Cris Jonson	Training Status LH/SH
Jeanne Jeffrey	William R Jonson	Stanley Bass
Georgia Morgan		Nancee Beamer
Maureen Nottingham	Probationary LH/SH	Sue Becknell
Yvonne Patrick	Specialty	Sue Boykin
Larry Paul	John Burch	Marilyn Cole
Jane Rebello	Irma Castle	Roland Lindsey
Gloria StephensRoxie Belk	James Costello	Mrs. Pat Smith
Spight	Joyce Davis	Arthel Scheuermann
Phyllis Whitney	Beth Hicks	Jill Berger Eisenhuth
Bert Williams	Charlotte Leutze	Michael Winters
Grace Woodman	Solveig MV Pflueger	Marti Poff